

第2回 『伊勢物語』

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

むかし、紀の有常といふ人ありけり。三代のみかどに仕うまつりて、時にあひけれど、^アのちは世かはり時うつ

りにければ、世の常の人のこともあらず。人からは、心うつくしく、あてはかなることを好みて、こと人にもに

ず。貧しく経ても、なほ、むかしよかりし時の心ながら、世の常のこともしらず。年ごろあひ馴れたる妻、やう

やう床はなれて、つひに尼になりて、姉のさきだちてなりたる所へゆくを、男、まことにむつまじきことこそな

かりけれ、いまはとゆくを、いとあはれと思ひけれど、貧しければするわざもなかりけり。思ひわびて、ねむご

ろにあひ語らひける友だちのもとに、「かうかう、いまはとてまかるを、なにこともいささかなることもえせで、

つかはすこと」と書いて、奥に、

手を折りてあひ見しことをかぞふれば十といひつつ四つは経にけり

かの友だちこれを見て、いとあはれに思ひて、夜の物までおくりてよめる。

年だにも十とて四つは経にけるをいくたび君をたのみ来ぬらむ

かくいひやりければ、

これやこのあまの羽衣むべしこそ君がみけしとたてまつりけれ

よろこびにたへで、また、

A 秋やくるつゆやまがふと思ふまであるは涙のふるにぞありける

語句

。あふ「会ふ・逢ふ・合ふ」**〔動〕**①出会う②結婚する

③時節機会に出くわす④対向して争う。

。あてはかなり「貫はかなり」**〔形動〕**「あてやかに同じ」。

「あてやかにかなり」**〔貫やかにかなり〕****〔形動〕**「優美な・上品な・げ

ここと」**〔異〕****〔接頭〕**（名詞に付いて）別の、他の

。にる「似る」**〔十上〕**は「似ると煮る」

。なほ「猶」**〔副〕**①やはり②もっと

。やうやう「漸う」**〔副〕**だんだん・しだいに

。むつまじ「睦まし」**〔形〕**①親しい。親密である。

②慕わしい・なつかしい。

。いまは「今は」**〔連語〕**今はもうお別れです

。わづ「我非の動詞化」**〔動〕**「つらい・困る」

「く」動詞の連用形の下に付いて

①くして思い悩む・どうしようもなく

②くかぬる・くにくくなる

。ねむごろなり「懇ろなり」**〔形動〕**①熱心だ・丁寧だ

②親しくする

。つかはす「遣はす」**〔動〕**①へ行かせる「派遣する」の尊敬語

「おやりになる」派遣なさる

②へ「授く・与ふ」の尊敬語「物を」おやりになる

③（尊敬の意を失って）行かせる・派遣する

。あひみる「相見る・逢ひ見る」**〔マ上〕**①対面する

②男女が関係を結ぶ

。よるもの「夜の物」**〔連語〕**「夜・寝る時に用いるもの」

「夜着・ふとんなど」。

。むべ「宜」**〔副〕**なるほど

「くむべし」**〔連語〕**なるほどへ「むべ」を強めた言い方

。みけし「御衣」**〔名〕**おろし物・着物の敬称。

へ「み」は接頭語「けし」は「着る」の尊敬語「着す」の

連用形の名詞化